

2012. 4. 1

BUNKA GAKUEN COSTUME MUSEUM NEWS

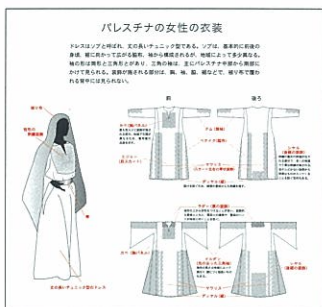
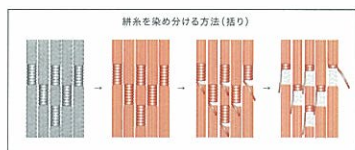
編集・発行 文化学園服飾博物館

- 服飾博物館・展示の工夫…………… 1
- 2011年度の展示報告…………… 2
- 服飾博物館 トピックス…………… 3
 - 災害時の対応と取り組み
 - 時事通信発「文様の美」を連載
- 2012年度展示のご案内…………… 4

服飾博物館は新しい施設に移転し10年目を迎えます。当館では、広い視野から服飾や染織の奥深い世界を探り、服飾を通して日本と世界の諸文化を理解できるよう努めています。多くの企画展示を重ねていく中で、服飾博物館ならではの展示方法や工夫などが考え出されました。今後も皆様にご満足いただけるような展示を目指してきたいと思います。

理解できる展示を

服飾博物館では、服飾や染織品そのものの持つ美しさを鑑賞するだけではなく、それが生み出された文化や歴史的背景を探究する視点も重要と考えています。こうした内容は難しくなりがちですが、ビジュアルを多用して説明し、整理して理解できるよう努めています。また、複雑な染織技法や着装方法などは、学芸員の撮影した現地写真や動画、学芸員の描くイラストなどで分かりやすく紹介しています。



染織技法や民族衣装の着装方法などをイラストを使って紹介する。



展示導入部分では、世界地図に展示品を重ねたり、年表にまとめるなど、概要を理解しやすいように工夫する。

イメージを伝える展示を

さまざまな地域や年代の服飾を展示する際には、服飾そのものが違和感なく、より自然な形で伝わるように工夫しています。ヨーロッパのドレスの展示では、マネキンの頭に当時の髪型を白い薄紙で再現し、ドレスの持つ雰囲気損うことなくイメージを伝えます。この方法は当館が独自に開発したもので、国内外の博物館からも問い合わせを受けるなど、注目されています。また、民族衣装の展示では、その地域の標準的な体型などを考慮した上で着せ付けを行っています。



民族衣装の展示では、マネキンの体型や色なども考慮する。



時代によって異なる髪型。
↑ 1860年代
← 1920年代



ドレスには時代の流行があり、髪型や帽子とのバランスも重要。

染織資料を思いやる展示を

貴重な資料を良い状態で長く保存していくことは、博物館の果たすべき役割の一つです。一方で、展示をするということは、染織資料の劣化が進む恐れもあります。このため、それぞれの資料に対して最適な展示方法を考え、安全に展示をする工夫を行っています。



* 当館で使用する磁石は、人体やペースメーカーなどには無害です。



ダメージのある資料は、ねかせて展示する。

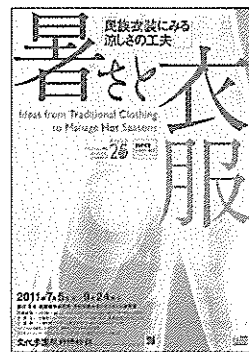
ヨーロッパ・モード
4月13日～6月11日

学園に新入生を迎えるこの時期は、毎年、モードの歴史をたどる展示を企画します。モードを生み出す背景となる政治の変動、科学技術や産業の発達、女性のライフスタイルの変化などについて触れ、さまざまなスタイルのドレスを紹介しました。また、イギリスのロイヤル・ウェディングにちなみ、1840年代から1950年代までのウェディング・ドレスを特集しました。時代ごとの流行に沿ったさまざまなスタイルのウェディング・ドレスは、「現代から見るととても新鮮なものに感じた」との声も寄せられました。



暑さと衣服 —民族衣装にみる涼しさの工夫—
7月5日～9月24日

いかに環境に優しく、且つ快適に暑さと付き合っていくのかを、暑さのきびしい34の国々の伝統衣装の中に探りました。展示では、暑い地域を6つの気候に区分し、その地域特有の暑さに衣服がどのように対処しているのかを、形態、素材などに着目して紹介しました。さらに、文化・衣環境学研究所や文化学園大学テキスタイル研究室の協力により、衣服素材の持つ涼しさの要因を科学的に検証しました。特に節電が求められたこの夏は、民族衣装の中の知恵や工夫を改めて認識し、夏の衣服を見直す良い機会となりました。



世界の絛
10月14日～12月17日

絛は古くから行われてきた染織技法の一つで、世界各地で親しまれてきました。文様にしたがってあらかじめ糸を染め分けた後に織りあげる絛は、色の境目に生じるかすが特徴です。展示では、絛の制作工程をパネルと映像で解説し、日本をはじめ23か国の絛の衣服と布を紹介しました。絛はそれぞれの地域によって独自の技術や民族特有の文様が見られ、また地域を越えて技術や文様表現に共通性が感じられるものもあります。観覧者からは「日本だけのものだと思っていた絛が、世界各地で行われてきた染織技法だということを初めて知った」という声も多く寄せられました。



ペイズリー文様 —発生と展開—
'12年1月27日～3月14日

ペイズリーとは、先端が片方に曲がったしずく形の文様です。本展では、起源となったインドの花文様から、ヨーロッパで流行した細長く複雑なデザイン、その他の地域で独自の解釈が加わったものまで、ペイズリー文様の変容と地域的な広がりを紹介しました。また、エトロ ジャパン、リバティジャパンにご協力いただき、伝統を重んじながらも新たなペイズリー文様を創造する両社の製品を紹介しました。展示に合わせ、本学学生、職員を対象とした「ペイズリー文様デザインコンクール」の応募作品89点も展示しました。身近なペイズリー文様の理解を深めることで、今後いっそう豊かな感覚でこの文様をとらえることができるでしょう。



館外の展示への協力

所蔵資料を貸出し、館外の展示に協力しました。＊〔 〕内は、当館所蔵の貸出資料

- 韓国歴史ドラマ「イ・サン」・「トンイ」の世界展 …〔朝鮮王朝宮廷衣装の複製資料〕
4月14日～19日 主催＝NHKエンタープライズ、NHKプロモーション 会場＝西武池袋本店
- ECOパーク2011「モンスーンライフスタイル ～暑い国から学ぶエコ～」…〔インドネシアの衣装〕
6月4、5日 主催＝NHK 会場＝NHK放送センター



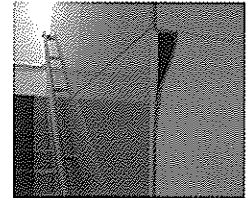
「モンスーンライフスタイル」展示風景

災害時の対応と取り組み

昨年、3月11日に発生した東日本大震災は、広い地域に大きな被害を与え、多くの文化財も破損、消失しました。また、東京都心部では、帰宅困難者の対応や高層ビル特有の揺れなど、多くの問題が浮き彫りとなりました。この震災を教訓に、服飾博物館においても、今後、災害時の問題について最善の対応策を考えていきたいと思っています。

◎ 3月11日の来館者への対応と被害状況

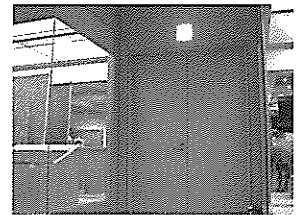
震災当日は「アンデスの染織」展を開催中で、地震発生時刻には10人程の来館者が展示を見学中でした。このため、地震発生後、係員が来館者を1階ロビーへと誘導しました。この時は日中のまだ明るい時間帯であり、情報もかなり混乱していたため、来館者の皆様には、速やかにお帰りいただくことをお勧めしました。また、展示室では展示品が倒れ、壁面の損傷が数か所あったため、直後から展示室の安全が確認されるまでの間を臨時閉館とし、当日のうちにホームページ上でもお知らせしました。来館者への対応が一通り済んだところで収蔵品の点検を行いました。幸い大きな被害はありませんでした。



震災で割れた大理石の壁
(ロビー、階段部分)

◎ 当館における避難と注意点

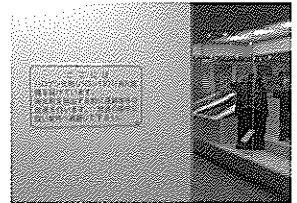
服飾博物館のある新宿文化クイントビルは、2003年に建てられた21階建ての高層ビルです。免震構造を備えているため、震度7程度の揺れに対しても安全です。ただし、壁や天井の剥離などには注意が必要です。揺れの大きさにもよりますが、展示室内で揺れを感じた時は、ガラスケースから離れるとともに、頭上の照明設備にも注意して下さい。また、屋外も上層階からのガラス落下などの危険があります。地震や火事などの災害時には、ビル管理部からの非常放送が流れるとともに、係員が展示室に向かいます。災害時は必ず係員の指示に従うようお願いいたします。



展示室中央にある非常口

◎ 博物館の消火設備について

当館では火の取り扱いをしていません。このため内部からの出火で火災が発生する確率は低いと考えられます。しかし、ビルには飲食施設もあるため注意が必要です。服飾博物館では、消火設備として、消火器（ロビー）、ハロゲン消火装置（展示室）を備えています。ハロゲン消火とは、水や粉末を使わず、ハロゲンガス（ハロン1301）の放出により鎮火するものです。水や消火剤による文化財の汚損を防ぐため、博物館、美術館などで広く採用されています。ガスを放出する際には、警報音と自動音声で知らせます。＊ハロゲンガスは人体にほぼ無害です。



ハロゲン消火設備の表示
(展示室ドア)

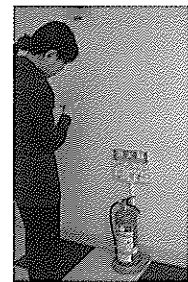
◎ 日頃の取り組みについて

【収蔵資料の保管状態】

収蔵品の中には陶器やガラス製品など、壊れやすいものもあります。このような資料は、衝撃を緩和する綿や布で梱包し、箱に収納するなどしています。更に落下を防ぐため、扉付きの棚に収納、あるいは紐で固定するなどの保管をしています。

【訓練と点検】

新宿文化クイントビルでは定期的に避難訓練を行っています。訓練では、消火器やAEDの使い方などの講習も受けます。また、法に基づき、防火専門業者による防火設備、消火設備点検の他に自主点検を行い、当館職員の間では緊急時における役割分担も決めています。



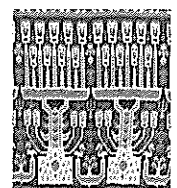
消火器の自主点検

時事通信発「文様の美」を連載

染織品の文様を紹介する連載コラム「文様の美」が、2012年1月から12月までの1年間にわたる毎日、時事通信社より地方紙向けに配信されています。このコラムは、服飾博物館の所蔵する染織品の写真と当館学芸員の解説によるものです。季節感あふれる日本の文様や、民間信仰にまつわる外国の文様などを取り上げ、文様に込められた意味を紹介しています。現在、連載を行っている新聞は、陸奥新報、福島民報、茨城新聞、静岡新聞、神戸新聞、山口新聞、愛媛新聞、大分合同新聞などです。



【鳥鶴】日本



【首絞】インドネシア

毎日さまざまな文様を取り上げます

4月12日～6月2日
ヨーロッパ・モード

*5/20は開館
*4/20、5/11、6/1 は19:00まで開館

めまぐるしく変わる近年のモード。その中には過去のスタイルを彷彿させるものも少なくありません。本展では、宮廷が優雅な流行を生み出した18世紀のロココ時代から、若者によって多様なスタイルが打ち出された1970年代まで、約200年間のヨーロッパの女性モードに焦点を当てて紹介します。同時にその流行が生み出された社会背景にも触れていきます。また特集として、現在も多く用いられているプリントを取り上げ、技術発展や美意識の変化なども考察します。



ローブ・ア・ラ・フランス
フランス 1770年代



イブニング・ドレス
ディオール フランス
1957年



ドレス
ランヴァン
フランス
1972年頃

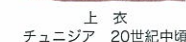
7月6日～9月21日
アフリカの染織

*夏期休館＝8/12～19 *8/5、8/26は開館
*7/13、8/31、9/14 は19:00まで開館

ヨーロッパの近代文明の価値観におかされることなく、独自の美意識と創造性によっておおらかな魅力を放つアフリカの染織。文様や色彩感覚の斬新さ、またそれらを生み出す染織技術の独自性は、時に私たちの想像を超え、驚きをもって受け止められます。イスラムとヨーロッパの要素が調和したモロッコやチュニジアの衣装、おおらかな文様を藍染で施すナイジェリアの巻衣など、展示ではアフリカのそれぞれの地域の染織品を紹介し、その特色を探ります。



女性用衣装
モロッコ
19世紀後半～20世紀初め



上 衣
チュニジア 20世紀中頃

巻布：マフェル（部分）
コンゴ民主共和国 20世紀



巻 布（部分）
ナイジェリア 2010年

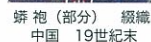
10月17日～12月22日
織りの服、染めの服

*11/3、4は開館
*11/9、12/7、12/21 は19:00まで開館

衣服を形作るとき、使用する布地の質感、文様、色はその印象を大きく左右します。それらは織り糸の種類や織り方、また布地を染める方法によっても変化します。本展では、日本の着物や世界各地の民族衣装の中に、さまざまな織りや染めの技法を見ていきます。織りでは、平織、綾織といった基礎的な織物から、糸の織り込み方によって文様を表わす紋織物までを、また、染めでは、絞り染や木版染など古代から続く比較的単純なものから、化学的ともいえる複雑な工程を経る多色染めまでを紹介し、



ドレス 紋織
シリア 1920年代



蟒 袍（部分） 綾織
中国 19世紀末

肩 掛（部分） 木版染
インド 20世紀後半



着物 絞り染
日本 昭和時代

'13年1月25日～3月14日 *2/8、2/22、3/8 は19:00まで開館
きものの文様

日本のきものには、世界に類を見ないほど多種多様な文様が表されます。植物や動物は言うに及ばず、風景や古典文学にいたるまで題材とし、それらは、具象、抽象といったさまざまな方法で表現されます。文様には、日本の細やかな四季の変化を写し取っていたり、めでたさや喜びといった吉祥を表したり、また、祈りや願いを込めたりします。本展では、季節ごと、あるいは婚礼や通過儀礼といった着用の機会などに分けてきものを紹介し、それぞれの文様に込められた意味を考えていきます。



女児着物
麻の葉文様
昭和時代



着物（部分）
雪笹に雀文様
昭和時代



打 掛
松竹梅鶴亀文様
明治時代

着 物（部分）
菊に雛 明治時代

* 上記の予定は都合により変更されることがあります。

利用案内

- ◆ 開館時間 10:00～16:30（各展示会期中3回、19:00まで開館 入館は開館の30分前まで）
- ◆ 休 館 日 日曜日、祝日、夏期・年末年始、展示替の期間
- ◆ 入 館 料 一般 500(400)円・大高生 300(200)円・小中生 200(100)円
*（）内は20名以上の団体料金、障害者とその付添者1名は無料
- ◆ 交 通 JR/京王線/小田急線 新宿駅(南口)より徒歩7分
都営地下鉄 新宿線/大江戸線 新宿駅(新都心出口6)より徒歩4分



文化学園服飾博物館

〒151-8529 東京都渋谷区代々木 3-22-7

TEL. 03-3299-2387

http://www.bunka.ac.jp

学校法人 文化学園

文化学園大学/文化ファッション大学院大学/文化服装学院/
文化外国語専門学校/文化出版局/文化学園服飾博物館